

第216回（令和6年11月24日施行）

基礎簿記会計

第1問<帳簿記入についての出題>

記帳の対象なる取引（帳簿に記入すべき出来事）の理解を確認するため、簿記上の取引を判断する問題を出題した。

1. 土地の賃借契約を結んだ時点に係る判断を確認している。
2. 商品の返品をした際の判断を確認している。
3. 天災を原因とした商品の廃棄に係る判断を確認している。
4. 営業用車両の劣化による部品交換が見積られた際の判断を確認している。

第2問<簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題>

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、商店連合会が管理する事務所の電気料金を支払った取引である。発生した水道光熱費（費用）と現金（資産）による支払の記帳を問うている。
2. は、商店連合会が会費を集金した取引である。発生した会費収入（収益）と、増加した現金（資産）の記帳を問うている。
3. は、商店連合会の事務所で使用するコピー用紙すなわち消耗品費（費用）の発生と、その支払いにより減少した現金（資産）の記帳を問うている。
4. は、中古車販売業者が、銀行から事業資金を借り入れた取引である。増加した借入金（負債）と入金により増加した普通預金（資産）の記帳を問うている。
5. は、中古車販売業者が、販売目的で商品を購入した取引である。購入した商品（資産）と、その代金を後日に支払う債務すなわち買掛金（負債）の記帳を問うている。
6. は、賃借している駐車場に対する料金すなわち支払地代（費用）の発生と、その支払いに伴って減少する現金（資産）の記帳を問うている。
7. は、中古車販売業者が商品（小型自動車）を販売した取引である。商品（資産）を引き渡し、販売に伴って発生する商品販売益（収益）と、販売によって回収する代金に関して、受け取った現金（資産）および後日に回収する権利である売掛金（資産）の記帳を問うている。
8. は、後払いにしておいた商品代金が銀行預金に入金されていた取引である。回収した売掛金（資産）と入金によって増加した普通預金（資産）の記帳を問うている。

第3問<会計の構造に関する出題>

期首の貸借対照表を出発点として経済活動が始まり、期中の様々な利益を獲得するための経済活動を経た結果、期末の貸借対照表が表す財政状態となる。また、期中の様々

な利益を獲得するための経済活動の成果（経営成績）を表すのが損益計算書である。この貸借対照表の構成要素である資産、負債と純資産（資本）の金額の関係、また損益計算書の構成要素である収益と費用の金額の関係を問うている。さらに、貸借対照表と損益計算書それぞれの構成要素から当期純利益を計算できるが、この当期純利益を介した貸借対照表と損益計算書の関係についての理解を問うている。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

1か月の収支計算を示すことによって会計報告を行う場合には、前月繰越金から出発し、報告する1か月の活動による変動を経て、次月繰越金に至ることを示す会計報告書を作成する。

本問では、現金出納帳の記帳からからバスケットボール同好会の会計報告書(勘定式)を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、複数ある支出項目については、指定された順番で記入することに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から精算表を作成できるかを問うている。解答用紙にあらかじめ示されている勘定科目について、借方残高であるのか、貸方残高であるのかを正しく判断できているか、そして作成した残高試算表欄から損益計算書欄と貸借対照表欄を正しく作成できるかを試している。